

■ 2021年度 入試問題分析シート ■

大阪大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間

90分

難易度(昨年比)

難化

昨年並

易化

分量(昨年比)

増加

昨年並

減少

<総論>

難易度、分量とも昨年並みで、あまり変化は見られない。

<特記事項・トピックス>

例年、理系との共通問題はせいぜい1題であったが、今年は1.5題含まれていた。ただし、今年度の共通問題は理系としては易し目であるので、文系受験生にとってもそれほど難しいとは思われない。今年度の3のような不定方程式の整数解に関する出題は2016年以来、久しぶりである。

<合格への学習対策>

教科書内容を十分に学習した後、入試数学の標準的な頻出問題を解くことにより、典型的な解法を習得することが必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	II	微分法	(1) 接線の本数を、方程式の異なる実数解の個数に帰着させる頻出問題 (2) 異なる2点を通る直線の方程式 (3) 分数関数の最小値。変数の適当な置きかえがポイント	標準
2	記述	B	空間ベクトル	(1) 空間の4点が同一平面上にある条件 (2) 内積計算及び垂直条件のベクトルでの扱い方	標準
3	記述	II, A	積分法、整数	(1) 積分計算 (2) 整数値をとる2式の値の組合せを考察する (3) 素数3に着目して、約数・倍数の関係を利用	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。